







A photograph showing a group of students walking up a wide, stone-paved staircase. The staircase is flanked by stone railings and leads up a hillside. The students are dressed in casual attire, and the background shows dense greenery and trees.



修学旅行 食品加工実習



## 職場体験学習



## 迫 桜 祭

「生意氣だ頭下げろ」、上級生に説教され昼の休憩時間は休む暇がなかったこと、農業実習でのかたわら若高女子学生とギュウギュウ詰での栗鉄（のちの栗電）での通学、食料難時代の下宿（冬）生活、桜花爛漫の迫川の堤防を闊歩したこと。他校の学生と喧嘩（当時は遊びの程度）してあつたものも何人かおりました。の栗農時代が今でも懐かしく思い出されます。

迫桜からの羽ばたきと  
出合の二感耐

高橋 郁車

(追櫻) 平成二十年卒  
栗原市若柳在住



高橋郁恵  
(追桜平成二十年卒  
栗原市若柳在住)  
輝く懐かしい  
教室から  
日差しが  
校庭を見こ  
と、三年間の高校生活と仲間との語らいが鮮明に蘇ります。思えば、私が追桜高校を卒業してから今年で七年になります。  
私は現在、青春を謳歌して勤務しています。あの時お世話になつた先生方や新しく出会う先生方、そして生徒たちに支えていただき、講師生活の一年目をスタートしきるところです。  
中学生の頃、祖父の疾患がきっかけで医療・福祉分野に興味を持ち、追桜高校では准学を目指して日々課外や模試に取り組んでいました。高3三年生の秋、第一志望の大学への推進入試がありましたが、先生方は放課後遅くまで面接練習や小論文の指導をしてくださいたことを覚えていました。残念ながら、第一志望には届きませんでしたが、「医療・福祉を深く学びたい」という思いは変わらず、一般入試に切り替えてから、より層学習に力を入れるようになります。悔しさをばねにやつとのこと合格通知を手にした時の気持ちは、今でも忘れられません。そして、最後まで献身的に支え、励まして下さった先生方に感謝してもしきれません。  
介護福祉士国家資格と教員免許を取得し、大学生活を終えた私は、仙台にあります老人保健施設で、介護福祉士として勤務していました。福祉現場での、認知症の利用者様

やそのご家族様との出会いがあり、「おもてなしの介護のあり方」や「人間の人生の尊さ」「自分らしく生きることの大切さ」を、多くの事例をもつて学ぶことが出来ました。そして今、その学びを活かします。かつて、生徒としてお世話をなった自分が、今度は先生としてお役に立てる次に、本当に感謝申し上げる次第です。

ささやかではあります、後輩の皆さんにこの言葉を贈りたいと思います。

『蒔かれた種は、すぐに花を咲かせるわけではありません。土の中で根を張り、茎を伸ばし、葉を茂らせ、つぼみをつくり、時期がくれば、花を咲かせます。だから、努力したのに何の成果もないように思える時も、辛い時も、苦しい時も、悔しい時も、誰にも見えないところで根を張り君はぐんぐん成長しているのです。いつか君がたくさんの花を咲かせ、たくさんの実を結ぶために…』私が恩師の先生にいただいた言葉です。

家族や先生方、友人、地域の方々、あなたが辛い時に羽ばたいてみて下さい。そして、いつか羽ばたくことがで伸びてくれるはずです。どうか、あきらめず夢に向かって、きたならば、それを支えてくれた人がいたことに感謝しましょう。それがまた誰かの支えになるはずです。

最後になりましたが、卒業生とてこれからも生徒の皆さんのご活躍と迫桜高校の益々の発展をご祈念いたします。そして、講師として日々授業への情熱と生徒への献身的姿勢に努めていきたいと思います。

## 感謝の気持ちを大切に

(迫櫻) **黃海**

1



様々な分岐点を経て、  
タカノハシアキラ

(若高)  
平成十三年



私は面接練習で企業訪問などに取り組みました。進路達成のため毎日忙しく、不安になりましたが、内定を勝ち取ることができました。しかし、先生方の温かいご指導により、なんとか内定を勝ち取ることができました。また、クラスや部活で出会った仲間たちの助けがあつたからこそ、今の自分がすることを強く感じています。感謝の一言では表すことができないくらいです。

さて、高校生活三年間は将来を考え、学んでいく時期だと思います。何となく高校生活を過ごすのではなく、毎日楽しく充実した生活を送り、「最高の高校生活だった」と感じられる三年間を過ごしてください。

ささやかではありますが、追桜生にエールを送りたいとかけ、教員をしていた両親にも恥ずかしい思いをさせてしまつたことを思い出します。

その後、高校を卒業してすぐにはドラマを目指して上京しましたが、十八～二十代前半は遊んでいるうちに過ぎてしましました。

このままではいけないとつっていたとき、ある縁から演劇の世界に足を踏み入れ、新しい自分を見つけることができました。

それから約十年。

お陰様でドラマとしての活動の他、役者として映画やドラマ、CMやイベント、舞台出演など貴重な経験を沢山させていただきました。また、回のよう回に同級生が集まつて飲み会を開いてくれます。いつも感謝の気持ちでいっぱいです。

先日、海外にてアメリカの

思います。まず一つ目は、とにかく楽しむことです。二つ目は、仲間を大切にすることです。クラスで出会った仲間、部活で出会った繋がりを大切にすることは、将来きっと役に立ちます。そして三つ目が、感謝の気持ちを忘れないことです。今の自分があるのも、先生方や仲間たち、家族や地域の方々の支えがあるからです。素晴らしい環境の中で生きていることに常に感謝してください。思い通りにいかない、うまくいかないとき、必ず手を差し伸べてくれます。陰ながら皆さんの活躍を期待しています。

最後になりましたが、これからも変わらぬご指導の程よろしくお願ひいたします。また追桜高校のさらなる発展をご祈念いたします。



